

平成27年度 第1回

千葉市文化財保護審議会

----- 関係資料 -----

- 1 千葉市ゆかりの家・いなげの千葉市地域文化財への登録について
..... 1
- 2 千葉市指定文化財の指定候補について..... 7

千葉市ゆかりの家・いなげの千葉市地域文化財への登録について

1 千葉市ゆかりの家・いなげ (旧武見家住宅) について

(1) 種別

有形文化財 (建造物)

(2) 員数

2棟 (主屋・離れ)

(3) 所在地

千葉市稲毛区稲毛1丁目16番12



主屋外観



主屋内部

(4) 所有者

千葉市

(5) 所有者住所

千葉市中央区千葉港1番1号

(6) 適用基準

本市内の地域の歴史上重要であると認められるもの



離れ外観



離れ内部

(7) 時代

建築年 大正2年 (推定)

(8) 説明

明治中期以降、保養地として多くの文人墨客が訪れた稲毛は、海岸線の松林を中心に、別荘・別邸が建てられた。その多くは和風建築であったが、この建物はその中で現存する唯一のものであると考えられ、非常に貴重な遺構である。

平成9年に武見氏より市が取得し、同年4月から「千葉市ゆかりの家・いなげ」として公開している。

屋敷は、平屋の主屋と庭の離れからなる。主屋は、棟がL字型となっており、南・東側の屋根には入母屋の破風が見られる。室内は、漆塗りの枠の腰付障子、菱格子で飾った欄間、高く張られた格天井など、随所に意匠が凝らされている。居間には洋間が付いているが、屋根の形状や取り合い柱の納まりから、のちに増築されたものであると考えられる。離れは、外壁が主屋の洋間のもと同じ板壁であることから、洋間を増築した時期に造られたと推定される。室内は、6畳と床の間で構成され、床脇の棚にはいわゆる木瓜窓を開けるなど、洒落た意匠となっている。

全体として改造が少なく、大正時代初期の意匠をよく伝えており、また、愛新覚羅溥傑が成婚間もない昭和12年に半年ほど居住していたという歴史的事実もあることから、稲毛の歴史を知る上で、非常に重要なものである。

参考文献：『千葉県の近代和風建築—千葉県近代和風建築総合調査報告書—』（千葉県教育委員会 2004年）

2 これまでの経緯

平成26年8月29日 平成26年度第1回文化財保護審議会にて審議

平成27年3月17日 平成26年度第2回文化財保護審議会にて諮問答申

条件付き（面積表を整理して表示すること。）で登録に相応しい旨の答申がだされた。

3 面積表

3・4ページ参照

4 今後の予定

平成28年第1回教育委員会会議にて千葉市地域文化財への登録を議決



平成27年3月17日

千葉市教育委員会
教育長 志村 修 様

千葉市文化財保護審議会
会長 岡本 東 三



千葉市地域文化財の登録について（答申）

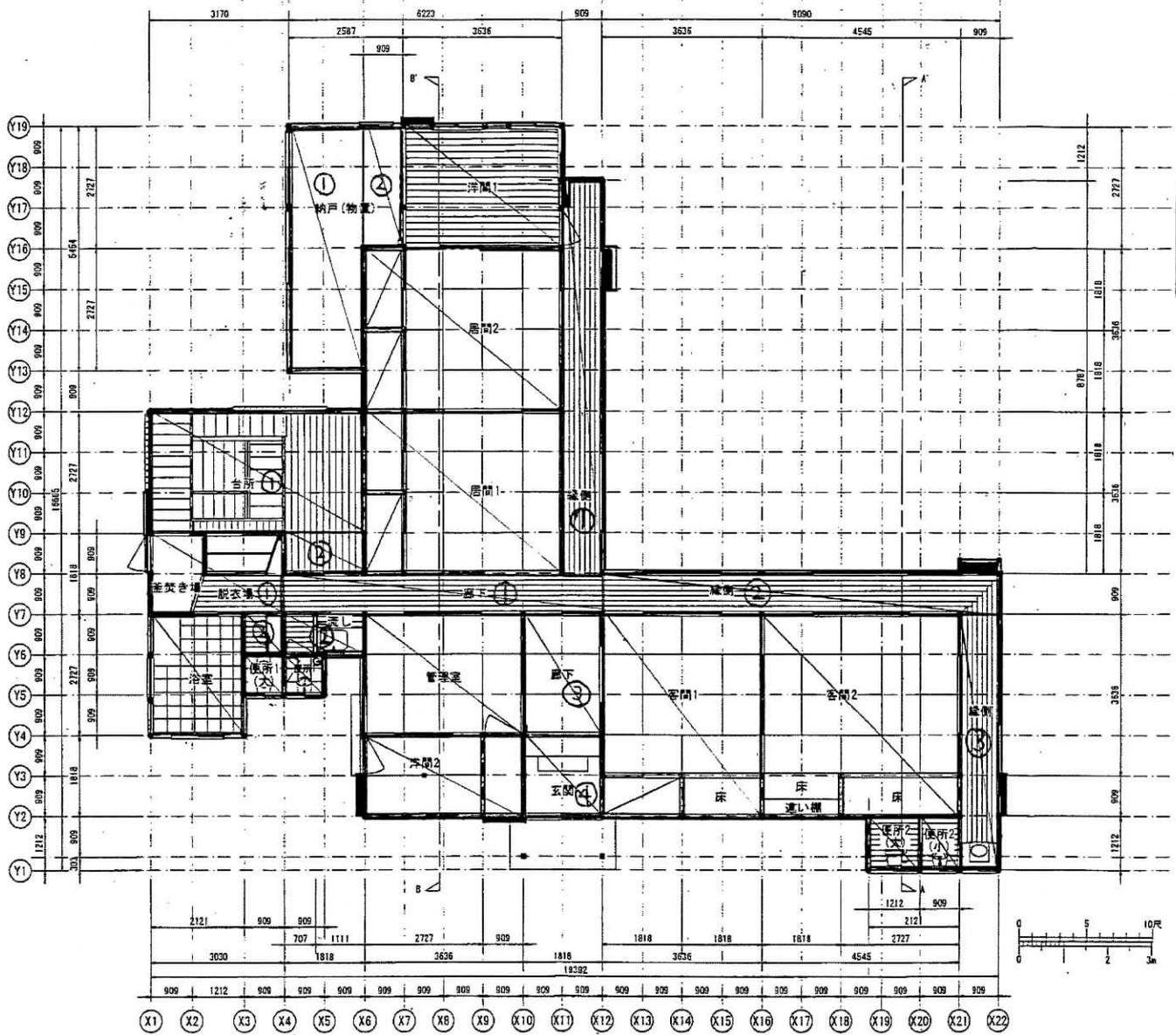
平成27年3月17日付26千教生第1295号で諮問を受けた本審議会は、千葉市ゆかりの家・いなげ（旧武見家住宅）を千葉市地域文化財として可とすることを答申します。

（意見）

面積表を整理して表示すること。

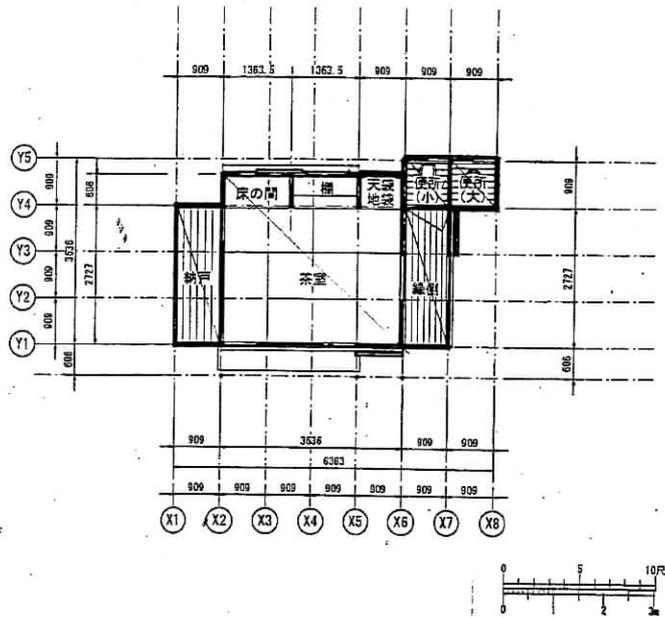
納戸は近年の増築であると考えられるため、将来的に国登録有形文化財への登録を目指す際には、納戸を切り離して考える必要がある。





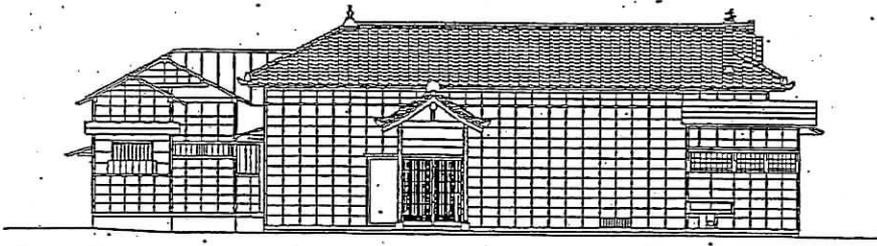
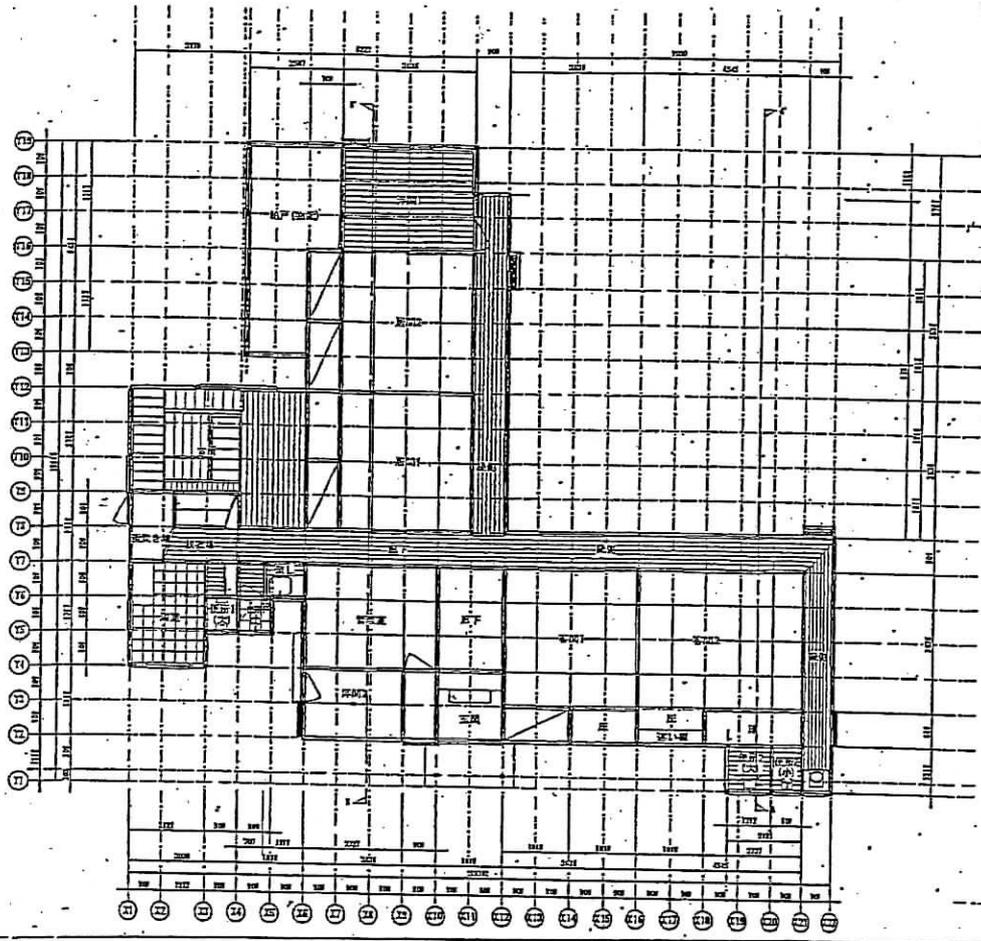
主屋各室床面積表

部屋名	(南北)	(東西)	計	面積(m ²)
台所	4.848 ×	2.727	13.220	
①+②	+ 1.818 ×	0.909	1.652	14.87
釜焚き場・脱衣場	3.030 ×	1.818	5.508	
①+②	+ 0.909 ×	0.909	0.826	6.33
浴室	2.121 ×	2.727	5.783	5.78
便所1(大)	0.909 ×	0.909	0.826	0.82
便所1(小)	0.909 ×	0.909	0.826	0.82
廊下・流し・玄関	7.132 ×	0.909	6.482	
①+②+③+④	+ 1.818 ×	0.909	1.652	
	+ 1.818 ×	2.727	4.957	
	+ 1.818 ×	1.818	3.305	16.39
管理室	3.636 ×	2.727	9.915	9.91
洋間2	3.636 ×	1.818	6.610	6.61
縁側	0.909 ×	8.787	7.987	
①+②+③	+ 9.090 ×	0.909	8.262	
	+ 0.909 ×	5.757	5.233	21.48
客間1	3.636 ×	4.545	16.525	16.52
客間2	4.545 ×	4.545	20.657	20.65
便所2(大)	1.212 ×	1.212	1.468	1.46
便所2(小)	0.909 ×	1.212	1.101	1.10
居間1	4.545 ×	3.636	16.525	16.52
居間2	4.545 ×	3.636	16.525	16.52
洋間1	3.636 ×	2.727	9.915	9.91
納戸	1.678 ×	5.454	9.151	
①+②	+ 0.909 ×	2.727	2.478	11.62
合計				177.31

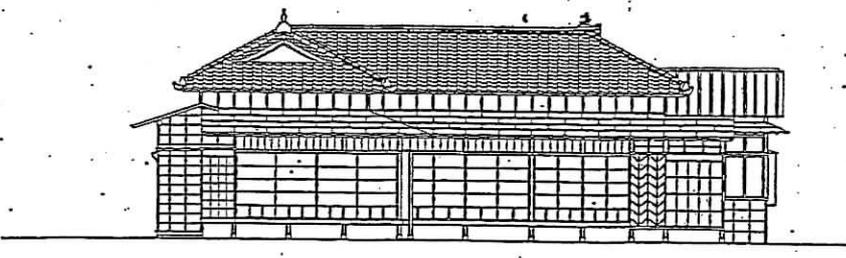


離れ床面積表

部屋名	計算式	計	面積(m ²)
茶室	3.636 × 3.333	12.118	12.11
納戸	0.909 × 2.727	2.478	2.47
縁側	0.909 × 2.727	2.478	2.47
便所(大)	0.909 × 0.909	0.826	0.82
便所(小)	0.909 × 0.909	0.826	0.82
合計			18.69



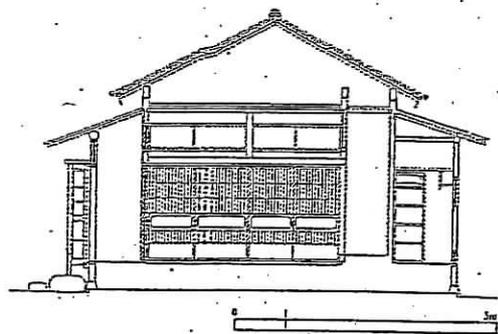
西面立面图



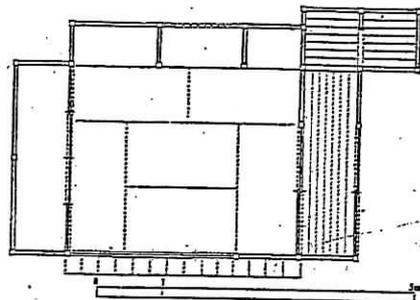
南面立面图



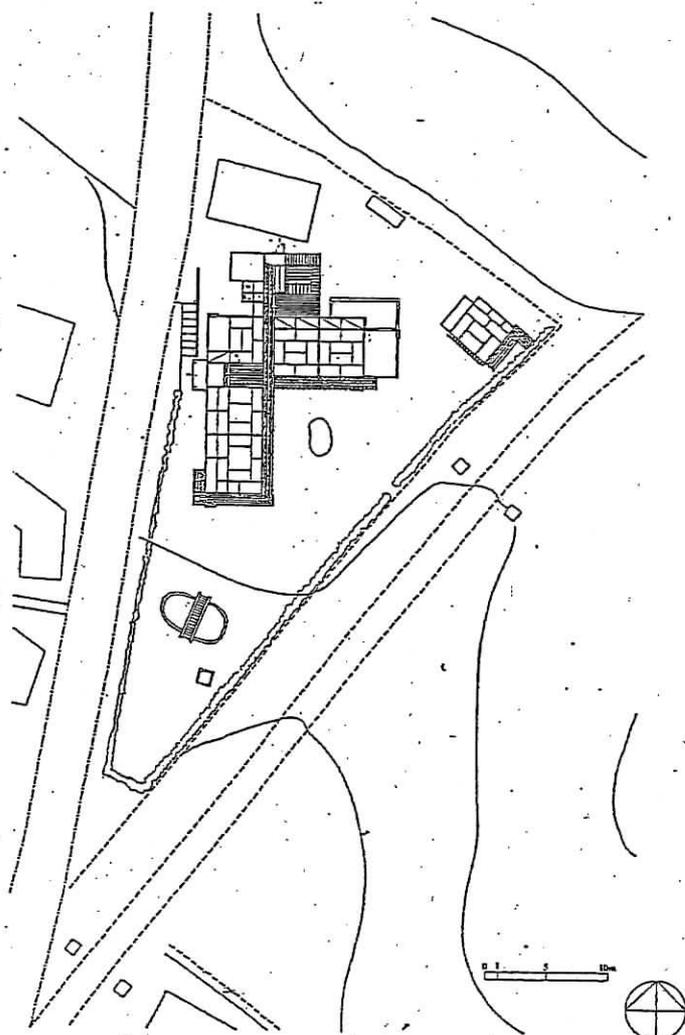
设计单位名称	设计日期
设计人姓名	设计比例



主屋梁間断面図



主屋平面図



配置平面図

指定文化財候補一覧

No.	名称	種別		員数	所在地	所有・管理者	時代・時期	公開/非公開
		有形	無形					
1	市内出土旧石器時代石器資料	有形	考古資料	1括	中央区南生実町1210 (埋蔵文化財調査センター内)	千葉市教育委員会	旧石器時代	一部公開
2	原文書	有形	古文書	50点	中央区亥鼻1-6-1 (郷土博物館内)	千葉市教育委員会	戦国時代	一部公開
3	愛新覚羅溥儀の書	有形	歴史資料	1幅	中央区亥鼻1-6-1 (郷土博物館内)	千葉市教育委員会	1990年	非公開 (パネル展示)

考古資料の指定について

1. 現 状

昭和33年の市文化財保護条例の制定以降、美術工芸品の視野に立ち、単品・優品主義の指定を行ってきた。

市埋蔵文化財調査センターで収蔵する出土資料についても、全国的に見て類例の少ない資料などを選び、平成23年度以降、指定を進めてきた。

【考古資料指定一覧】

平成27年12月1日現在

No.	指定年度	名 称	員数	所在地	所有・管理者	時代・時期	公開／非公開
1	S34	七廻塚古墳出土品	一括	埋蔵文化財調査センター	市教育委員会	古墳時代 5世紀	公開
2	S34	武石の板碑	1点	花見川区武石町	真蔵院	中世 永仁2年(1294)銘	公開
3	H13	古瀬戸灰釉四耳壺	1点	郷土博物館	市教育委員会	中世 13世紀	公開
4	H13	常滑長頸壺	1点	郷土博物館	市教育委員会	中世 13世紀	公開
5	H23	内野第1遺跡出土 人面付土版	1点	埋蔵文化財調査センター	市教育委員会	縄文時代 晩期	公開
6	H24	五十石遺跡出土 把手付中空円面硯 附 盤1点	2点	埋蔵文化財調査センター	市教育委員会	奈良時代 8世紀	公開
7	H25	中鹿子第2遺跡 出土土偶	1点	埋蔵文化財調査センター	市教育委員会	縄文時代 早期	公開

2. 問 題 点

単品・優品主義の指定は、対象が美術工芸的に優れた価値を有するものに限定されるため、時代や資料の性格が偏り、市の歴史的特色を反映した指定対象の選定ができない。

また、今後、発掘調査で対象となりうる資料が出土しない限り、新たな指定の増加が見込めない。

現在、国をはじめ多くの地方自治体では、各時代の生活・文化を語る上で重要な遺跡や遺構を選び、その出土資料を一括指定するケースが増加している。

3. 今後の方針

各時代の生活・文化を網羅的に理解できるよう、下記のとおり考古資料の一括指定の充実を図る。

- (1) 市民への公開を考慮し、市埋蔵文化財調査センターで収蔵する資料から選定する。
- (2) 発掘調査報告書が刊行され、遺跡および出土資料の客観的な評価が可能な資料から選定する。
- (3) 各時代ごとに出土資料を集成し、相対的な評価・検討を行った上で、適切な資料を選定する。

4. 旧石器時代の出土資料の選定について (資料4参照)

今後、計画的に各時代ごとの出土資料の集成を進めていく。

まず、旧石器時代の出土資料について集成し、市の旧石器時代の生活・文化を語る上で最も適切な資料を選定し、市指定文化財候補とする。

年度	刊行年	報告書名	所収遺跡名	ブリガナ	帰属時期	備考
S62	1988 (S63)	平川遺跡群	柳井戸遺跡	ヤナギイデイセキ	武蔵野台地VI層相当(ソフトローム～ハードローム): 槍先形尖頭石器期、ナイフ形石器期	
H3	1992 (H4)	土気南遺跡群II	古吉遺跡	フルダイイセキ	ソフトローム層中	
	1993 (H5)	土気南遺跡群III	弥三郎第2遺跡	ヤザブドウダイ2イセキ	ソフトローム上層: 尖頭石器群	
H4	1993 (H5)	土気南遺跡群IV	坂ノ越遺跡	サカノコイセキ	立川ロームV層下部: ナイフ形石器期	
H6	1995 (H7)	千葉市若郷遺跡	文六第1遺跡	フノクダ1イセキ	立川ロームV層、VI層下部: ナイフ形石器期、局部磨製石斧	研跡あり
	1996 (H8)	土気南遺跡群V	若郷遺跡	ワカゴイセキ	ソフトローム層中: 剥片2点	
			松ヶ丘遺跡	マツガカイセキ	ソフトローム上部: ナイフ形石器期	
H7	1996 (H8)	土気南遺跡群V	南河原坂第5遺跡	ミナモカワラサガダイ8イセキ	A地点: ソフトローム(妙川期、ナイフ形石器終末期) B地点: ソフトローム(ナイフ形石器終末期) C地点: ソフトローム(ナイフ形石器終末期) D地点: ソフトローム(ナイフ形石器終末期～槍先形尖頭器) E地点: ソフトローム、ハードローム(ナイフ形石器、槍先形尖頭器) F地点: ソフトローム(細石刃) G地点: ソフトローム、ハードローム(ナイフ形石器終末期、槍先形尖頭器、立川ローム区層下部～X層(剥片1点)) H地点: ソフトローム(細石刃、槍先形石器、ナイフ形石器) I地点: ソフトローム(細石刃、ナイフ形石器) J地点: ソフトローム(細石刃、槍先形尖頭器、ナイフ形石器)	
			丸山遺跡	マルヤマイセキ	ソフトローム	
			東台遺跡	ヒガシダイイセキ	ソフトローム、ハードローム上部: ナイフ形石器期	
H7	1996 (H8)	土気南遺跡群IV	文六第6遺跡	フノクダイ6イセキ	ソフトローム上部: 細石刃	
			南河原坂第5遺跡	ミナモカワラサガダイ5イセキ	ソフトローム、ハードローム上部: ナイフ形石器期、槍先形尖頭石器期	
			鶴山遺跡	ヨシヤマイセキ	立川ロームV層～IV層下部(武蔵野ローム第2黒色帯相当): ナイフ形石器期、局部磨製石斧	
			後台遺跡	ウシロダイイセキ	層位不記載: ナイフ形石器期、御子柴型石斧	
H8	1997 (H9)	千葉市小仲台A遺跡・牛尾樹遺跡	牛尾樹遺跡	ウシオヌスイセキ	立川ロームIV～V層?: ナイフ形石器期	
H10	1999 (H11)	千葉市戸張作遺跡II	戸張作遺跡	トバリサカイセキ	ソフトローム中: 槍先形尖頭石器期?	
H13	2002 (H14)	千葉市川崎遺跡・草刈場北遺跡・味噌草野遺跡	草刈場北遺跡	クサカリ、ハキタイセキ	ソフトローム上部: 細石刃	
H15	2004 (H16)	平和公園遺跡群II	うならす遺跡	ウナラスズ遺跡	ソフトローム中～ハードローム: ナイフ形石器期	
H18	2007 (H19)	千葉市下泉町遺跡群	端山越遺跡	ハヤマコシイセキ	ハードローム	
			大草台墳群	オオカサダイフウゴン	ソフトローム	
			五十五遺跡	ゴジュウクウイセキ	ソフトローム層中	
			北河原坂第1遺跡	キタガワラザカダイ1イセキ	ソフトローム層中	
			長塚遺跡	ナガツカイセキ	ソフトローム層中	
			上塚遺跡	カミツカイセキ	ソフトローム層中	
H20	2009 (H21)	千葉市土気東遺跡群調査概報	宮台遺跡	ミヤダイイセキ	ソフトローム層中	

千葉市指定文化財候補

はらもんじよ
原文書



千葉邦胤朱印条書

- 1 種別 有形文化財（古文書）
- 2 員数 50点
- 3 所有者 千葉市
- 4 所在地 千葉市中央区亥鼻1丁目6番1号（郷土博物館内）
- 5 適用基準 本市の歴史上重要なもの
- 6 時代 戦国時代
- 7 説明 千葉氏の家臣であった原家に伝わったとされる文書が中心となる。50点の内44点は、昭和51年本市に寄贈されたもので、当初は卷子に仕立てられていたが、現在は一点ごとにはがして裏打ちされている。残りは古書店などから購入したものである。

内容は、主に千葉氏や北条氏からの軍役上の指示等であるが、原家以外に宛てられた文書も含まれている。宛所を欠く文書も少なくないが、戦国期の千葉氏・北条氏研究に欠かすことのできないもので、本市及び周辺地域の戦国期の社会情勢を知る上でたいへん重要な史料である。

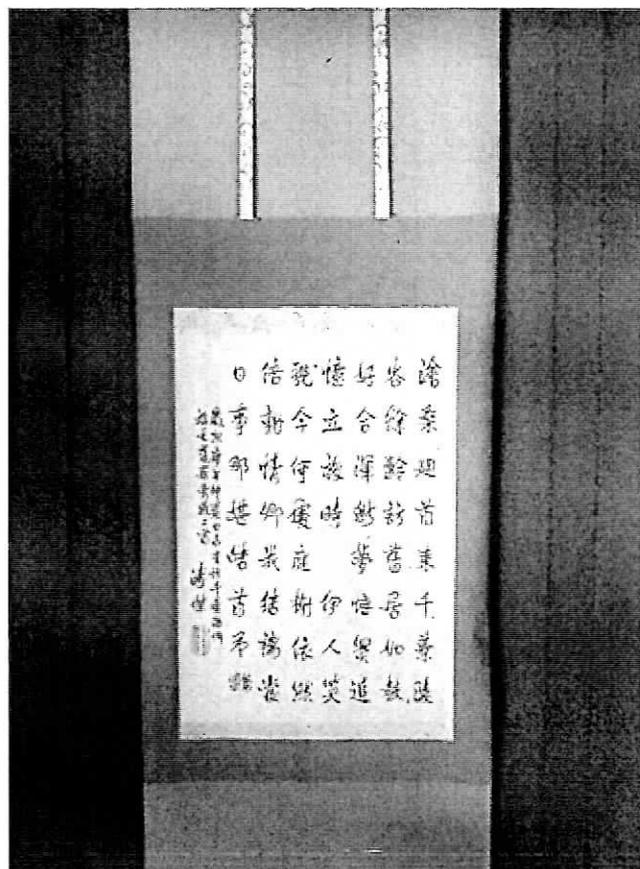
参考文献：『千葉縣史料 中世篇 諸家文書 補遺』（千葉県文書館 1991年）

千葉市指定文化財候補

あいしんかくらふけつ

愛新覚羅溥傑の書

- 1 種別 有形文化財（歴史資料）
- 2 員数 1幅
- 3 所有者 千葉市
- 4 所在地 千葉市中央区亥鼻1丁目6番1号
（郷土博物館内）
- 5 適用基準 歴史上重要な人物に関する遺品のうち、本市の歴史上重要と認められるもの
- 6 寸法 全体 幅 59.5cm×高さ 157cm
本紙 幅 46.1cm×高さ 64cm
全幅（軸先から軸先）65cm
- 7 時代 1990年（夏頃）
- 8 説明 中国清朝最後の皇帝・愛新覚羅溥儀の実弟である愛新覚羅溥傑は、中国の現代三筆に数えられる書家として、多くの書を残している。



昭和12年、溥傑は嵯峨浩と結婚後、半年ほど千葉の稲毛に居を構えた。（その家は、現在「千葉市ゆかりの家・いなげ」として一般公開中）。この書は溥傑の晩年に書かれたものであり、新婚当時に思いをはせて詠んだ漢詩が二首したためられている。浩夫人が亡くなって3年後の平成2年、溥傑がふたたび千葉市を訪れた際に市に寄贈された。千葉市と溥傑夫妻のつながりを偲ばせる作品であり、千葉市の歴史を知る上で重要なものである。

《漢詩の内容》

滄桑廻首来千葉 陵谷余齡訪旧居
如鼓好合渾断夢 憮然追憶立移時
伊人笑貌今何処 庭樹依然倍動情
卿我結褵当日事 那堪皓首弔鴛盟
歲次庚午仲夏 重訪千葉海岸稲毛旧居有感二首 溥傑

〔訳〕

過ぎ去った歳月を顧みて再び千葉に来る。世の中はすでに大きく変わっているが、余齡をもって稲毛の旧宅を訪れる。新婚当時は琴瑟相和して仲がよく、まるで夢のようだった。短い期間ではあったが、想い出すとつい我を忘れてしまうほど幸せだった。

愛しい妻の姿と笑顔は今は何処に。昔のままの建物と庭を見ていると恋しい情が次々と湧いてくる。君と結婚したその日のことが目の前に浮かび、白髪いっぱいになった今にかつての愛の誓いを思い出すにはしのびない。

再び千葉海岸稲毛旧居を訪れて感あり二首を詠む。 歲次庚午仲夏 溥傑

参考文献：『愛新覚羅溥傑・浩書画集』（福永媯生編 2014年）